

特定非営利活動法人 プロジェクト南からの潮流



長谷集落は湧き水が豊富で、毎年9月に滝の麓にニジマスを放流し、養殖を行っている。翌年の田植えの時期には子供たちに釣らせて、塩焼きにして昼食に。

評価のポイント

特定非営利活動法人プロジェクト南からの潮流が、「ちごの滝村交流館」や、「稚児の滝窯」を交流拠点施設として位置づけて自然体験プログラムを実施したり陶芸教室を開催したことなどにより、鹿児島市を中心とする都市住民との交流が拡大している。

また、長谷集落は、山林、滝、湧き水、棚田等の自然資源に恵まれていることから、同法人では、間伐材による交流施設の整備や自然木を活用した案内標識の設置、地域から採取する粘土、清水、雑木を活用しての登り窯の運用などによって貴重な地域資源を有効

に活用しており、これらの地域資源の活用においても、地域住民及び法人の一体的な連携・協力によって限られたマンパワーを効率的に機能させている。

さらに、行政においても様々な支援事業を実施するとともに、行政職員がボランティア参加するなど、協働の関係が築かれている。

同法人の活動においては、住民はもとよりボランティア・行政職員などの集落活動への積極的な参加が促進され、多様な主体の連携・協力による地域づくりの仕組みが確立されており、過疎地域が将来にわたって自立・活性化していく効果的な手法の一つとして外部の力を有効に活用しているモデル的な取組といえる。本事例においては、このような点が評価された。

元気集落

「高齢化率60%」からの挑戦

南さつまの地から新たな交流を目指して



米作り体験の一環で、鎌を使用して稲刈りをしている風景。稲刈り機（バインダー）の体験も行っており、毎年多数の家族連れや学生が参加。



陶芸の里を目指して、平成21年度より陶芸教室を実施。集落住民やツアー客が数多く参加している。本焼きには地域内外の粘土や雑木などを活用して完成させた三連式の登り窯を使用し、本格的な作品が焼きあがる。



長谷集落にはクヌギの木が多く、それを原木として活用したきのこ類の栽培を計画。まずはしいたけの種駒を原木500本に打ち込み、収穫を心待ちにしている。今後の地域の産業としても成功を期待。



間伐材を使用し建設した交流施設「ちごの滝村交流館」。地域住民の語らいの場所となっている。また、地域外から訪れた人々の憩いの場としても活用している。

事例の概要

◎「特定非営利活動法人プロジェクト南からの潮流」が活動する南さつま市は、平成17年11月に加世田市、笠沙町、大浦町、坊津町、金峰町の5市町が合併して誕生した薩摩半島西部の市であり、全域が過疎地域である。同法人は、「南さつま市の地から新しい流れを作りたい」との思いで平成13年に設立され、平成18年に、市内の奥まった場所にある高齢化が極度に進んだ長谷（ながたに）集落（18世帯27名、高齢化率88.9%）の存在を知り、限界集落ならざる「元気集落」への取り組みを始めた。

◎活動内容として、地域の間伐材を利用した「ちごの滝村交流館」、道案内板の整備、登り窯「稚児の滝窯」などの交流施設等を集落住民の参加を得ながら完成させており、交流事業の拠点としている。また、集落内の公民館で「長谷おしゃべりクラブ」を開催し、普段顔を合わせる機会の減っている住民が皆で集まって身体を動かしたり歌ったりする機会を設けている他、棚田を活用した米作りやそば作り体験事業、しいたけ栽培等の自然観察事業など、都市住民との様々な交流事業を展開している。

鹿児島県 南さつま市(みなみさつまし)



国勢調査人口

昭和35年	昭和45年	平成7年	平成12年	平成17年
78,091	59,584	45,845	43,979	41,677

人口増減率

H17/S35	H17/S45	H12/H7	H17/H12
-46.6	-30.1	-4.1	-5.2

交通のご案内

自動車・県道17号指宿鹿児島インター線(指宿スカイライン)谷山ICから、県道20号(鹿児島加世田線)を経由して車で約40分
鉄 道・JR鹿児島中央駅から車で約50分
飛行機・鹿児島空港からバス約75分

団体連絡先

特定非営利活動法人 プロジェクト南からの潮流
〒897-0003
鹿児島県南さつま市加世田川畑2770番地32
TEL/0993-52-7829
FAX/0993-78-3911
URL/http://www61.tiki.ne.jp/~npko-kaseda/